

教育目標	
心豊かにたくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・研究保育やエピソード研修を行い、また、「幼保小の架け橋プログラム調査研究事業」に参画することで、保育を振り返ったり幼稚園教育で大事にしていることを発信したりする機会が得られ、教員の指導力の向上を図り、概ね、目指す子ども像に近づくことができた。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・保幼小の交流ができていたことがよかった。感染対策をしながらもいろいろな行事ができていたことがありがたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月21日	学校運営協議会理事
最終評価	令和5年3月15日	学校運営協議会理事

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
・子ども自らが環境にかかわり、遊びが進められるような、教材の選択、配置の仕方を考え、一緒に遊びながら子どもとともに環境を構成する。 ・異年齢の交流「幼稚園家族」で、いろいろな人とかわり、相手の良さに気付く機会を持つ。 ・子どもの姿から学びに向かう力を見取り、保護者や小学校教員に発信する。
（取組結果を検証する）各種指標
・学びに向かう力の育成に視点を当てた研究保育、エピソード研修の実施と内容 ・「幼稚園家族」の実施と内容 ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身に付けていること」の回答

中間評価

各種指標結果
・エピソード研修について園内で1回、指導課の指導を受けて1回行った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園家族」の活動を4歳児と5歳児で7月7日に1回行った。 ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身に付けていること」の回答はA（あてはまる）88%、B（ややあてはまる）12%であった。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード研修では、普段参加しにくい子どもが参加できるように、しっぽ取りのルールを教師が変えることを提案したら、受け入れられて全員で遊ぶことができた。しかし、ルールを変えることに反対する子どもがいてもよい。自分の思いが出せることが大事である。また、小学校の教員にこのようなエピソードを伝える機会があればよい。 ・「幼稚園家族」の活動として、同じグループの友達と触れ合って遊ぶことで、異年齢の友達を改めて知り、親しむことができた。 ・保護者は我が子が夢中になって遊び、成長していくのだと受け止めているようである。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・エピソード研修の内容（子どもの育った力）を、小学校の先生にもわかるように発信する機会を持つ。研究保育は9月、1月に行い、指導課や小学校教員や保育所保育士に参観してもらい、夢中になって遊ぶ姿や育ち（学びに向かう力）について研究協議を行う。 ・「幼稚園家族」の取組は、感染状況を見ながら、毎月の誕生会などの機会に行う。 ・夢中になって遊ぶことで何が育っているのか、発信したい。 <div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係や主体的な遊びに視点を当てた研究保育、エピソード研修の実施と内容 ・「幼稚園家族」の実施と内容 ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身に付けていること」の回答
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>保護者アンケートの結果が肯定的な回答が多い。子どもは喜んで、親は安心して通っているので、より、のびのびと遊べるように指導をしてほしい。</p>

最終評価

	<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係や主体的な遊びに視点を当てた研究保育、エピソード研修の実施と内容 ・「幼稚園家族」の実施と内容 ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに向かう力）を身に付けていること」の回答
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に4歳児の研究保育を行い、少人数学級で子どもたちが意欲をもって活動するために環境の工夫、教師の援助の仕方について協議した。他学年と交流し刺激を受けられるように、園内の体制が必要であることを再確認した。 ・幼稚園家族のグループでの活動はできなかったが、園外保育などで異年齢の交流は行うことができた。 ・保護者アンケート項目「子どもは、夢中になって遊ぶことを通して、主体的に学ぶ力（学びに

	向かう力) を身に付けていること」の回答 A (あてはまる) 92%、B (ややあてはまる) 8% であった。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが意欲をもって遊ぶためには何に興味関心があるのか把握し、環境を工夫して教師から遊びを投げかけたりする。他学年と交流しながら、人間関係を広げ、遊びの刺激を受けるように、教員が連携する。 ・「幼稚園家族」の取組を例えば誕生会の後のお楽しみに位置付けるなどして、計画的に行う。 ・保護者アンケートでは、A 評価が前期より増加していて、ほとんどの保護者が幼稚園で遊ぶことでいろいろなことを学んでいると理解している。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが毎日喜んで幼稚園に通っていることがうれしい。友達と遊ぶことが以前より楽しくなっているようで、成長を感じる。

(2) 幼小連携・接続に関して

<div>具体的取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小の交流や研修の年間計画を策定し、実施する。 ・人とのかわりに視点を当て、子どもの姿をとらえ、育ちを探る研修を行う。 ・接続期のカリキュラムを作成する。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりに視点を当て、子どもの姿をとらえ、育ちを探るための研究保育、エピソード研修の実施と内容 ・接続期のカリキュラムの作成のための研修実施 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること」の回答

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の研究主題、子どもの実態について話を聞き、目指す子どもの姿や主題について、保幼小で共通理解を図った。互いの教育を知るための研究保育、研究授業を年間計画に位置付けた。 ・研究主題を元に小学校と共通の視点「つながり」「主体性」「連携」と決めて、架け橋期のカリキュラムを作成することを小学校と共通理解をした。 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること」の回答は、A (あてはまる) 85%、B (ややあてはまる) 15% であった。
自己評価	<div>分析 (成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・架け橋の研究の年間計画を策定し、見通しをもって取り組めるようにした。効率よく無理のないように進めることが課題である。 ・小学校との共通の視点である「安心・安定感」「つながり」「主体性」について、幼小で経験させたい内容や教師の援助、環境を小学校教員と一緒に考えて、カリキュラムを作成したい。 ・子ども同士の交流ができていないので、教員研修の様子を発信したが、保護者からの反応はなかった。

学 校 関 係 者 評 価	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小の連絡を密にし、ブロック会議の内容を小学校と共有し、当日スムーズに進行するようにする。また、気軽に話し合える関係づくりを行う。 ・ カリキュラムは幼稚園と小学校が互いに内容を理解できるよう、わからないことは確かめながら、話し合いのうえ作成していきたい。 ・ 保護者へホームページや月のおたよりで、保幼小連携していることを継続して発信する。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心・安定、人間関係に視点を当て、子どもの姿をとらえ、育ちを探るための研究保育、エピソード研修の実施と内容 ・ 接続期のカリキュラムの作成のための研修実施 ・ 保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること」の回答
	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>小学校、特に同年齢の子どもがいる保育所と交流があればよい。1学期に計画されたがまだ一度もできていないので、2学期も計画して子どもが様々な人と関わる経験をしてほしいと願う。</p>

最終評価

自 己 評 価	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心・安定、人間関係に視点を当て、子どもの姿をとらえ、育ちを探るための研究保育、エピソード研修の実施と内容 ・ 接続期のカリキュラムの作成のための研修実施 ・ 保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること」の回答
	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「幼保小の架け橋プログラム調査研究事業」に参画し、年間 5 回のブロック会議で公開保育を行ったり、公開授業を参観したりして、事後研修を行うことができた。事後研修で、就学前教育と小学校教育の違いと共通点を出し合い、理解を図ることができた。 ・ 架け橋期のカリキュラムを作成にあたり、それぞれの連携の窓口となる教員と実態や願いを出し合い、カリキュラムの共通の視点を決める研修を行った。そのことが互いの教育を知ることになった。 ・ 保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること」の回答は、A（あてはまる）72%、B（ややあてはまる）22%、C（あまりあてはまらない）6%であった。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブロック会議は小学校の教員、保育所保育士が参加して互いの教育について話し合える貴重な機会であった。来年度は今年度の成果を踏まえ、より理解を深めたい。そして、幼稚園教育で大事にしていることを、小学校教員に分かりやすく発信できる力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を通して幼稚園の子どもの姿を伝える力をつけたい。 ・ 来年度は作成したカリキュラムを実践し、見直したい。 ・ アンケートの結果が前期と比べて、A評価が13%下がり、B評価が7%上がっている。PTA活動は行事を見直し縮小したことが影響しているようである。また、保幼小連携もこのアンケート後に実施したので、連携ができていないとひょうかされたかのう

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、保育所との交流「にこにこタイム」「体操教室」は子どもが楽しかったと言っていた。これからも続けてほしい。
---------	--

（３）預かり保育に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で自然に関わる姿を大事にし、子ども同士で育ちあう機会となるように援助する。 ・時期や子どもの状態に合わせて預かり保育が行えるように、担任と連携したり、預かり保育の記録を園長や担任が共有したりする。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 ・預かり保育の指導計画の見直し ・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・午後の預かり保育の参加の割合は多い時で全体の４割ほどである。朝の預かりは毎日２～３人は利用している。 ・記録を担当教員が毎日つけている。 ・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答は、Ａ（あてはまる）９４％、Ｂ（ややあてはまる）６％であった。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの希望に合わせて利用する保護者が多い。利用率とともに、定期的に通院する人、未就園児や介護が必要な人がいる家庭など、本当に必要な保護者が利用できているかについても、知りたい。 ・記録は個人の姿についてよく書かれているが、遊びの様子も書くようにすると、指導計画につながると思われる。 ・保護者の預かり保育への評価は高い。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭の状況を担任から知るようにし、預かり保育を子育て支援としての利用を呼び掛ける。 ・記録に遊びの様子を書いて、指導計画に反映する。 ・どの保護者も安心して利用できる預かり保育の在り方を探っていく。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数、新２号認定の人数の把握 ・預かり保育の指導計画の見直し ・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>朝の預かり保育が始まって喜んでいる保護者が多い。先生たちの負担にならないように、続けてほしい。</p>
---------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数、新2号認定の人数の把握 ・預かり保育の指導計画の見直し ・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数は全園児数の5割から8割で、子どもの「幼稚園でもっと遊びたい」という気持ちを受け入れて利用されている保護者が多い。新2号認定は妊娠・出産によるものの割合が増えた。1月からアプリが導入され、申込や利用料金の計算など事務の軽減が図られた。 ・アンケート項目「園は、安心・安全な預かり保育の運営を行っていること」の回答A（あてはまる）92%、B（ややあてはまる）8%であった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが園に慣れて預かり保育に参加できることが、保護者の安心感と園への信頼感につながっていると思われる。預かり保育の様子をホームページで発信し、教育内容について理解を図りたい。 ・ほとんどの保護者が安心して預かり保育を利用していることが分かった。年度途中から新2号の申請を申し出る方もあり、制度が浸透してきている。公立幼稚園の良さとしてアピールしたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の預かり保育が始まり、大変助かっている。ホームページやポスターでもっと知らせるべきだと思う。

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園長や担任が登降園時やほっこり子育てひろばなどで、子どもの姿について伝えて保護者が喜んだり、保護者の困りを把握したりして、一緒に育ちを見守る。 ・「未就園児教育相談うさぎ組・めだか組」で、未就園児保護者同士の交流を図るとともに、園児や園の環境を見てもらい、幼児期に大切なことを発信する。 ・地域の児童館、保育所と保護者や子どもの実態などの情報を交換する「ぐんぐん会議」を定期的に行い、地域の事業に参画する。 	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数 ・「ぐんぐん会議」の実施回数とその内容 ・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答
---	---

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばは4回実施した。参加者は11名であった。 ・「ぐんぐん会議」は5月と8月に、2回実施した。 ・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答はA（あてはまる）88%、B（ややあてはまる）12%であった。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばは、働いている保護者が増えてきているため、毎回少人数である。話しやすい雰囲気があり、誕生会参観の感想、生活習慣について話し合うことができた。 ・ぐんぐん会議では、11月のイベントの打ち合わせと情報交換を行った。情報交換の内容はコロナ対策、保護者対応が多い。 ・子育て支援の取組は、おおむね満足されているようである。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばは参加者が少なくても、継続することが大事だと考えるので、続けていきたい。また、どんなことを取り上げたいのか探りたい。 ・ぐんぐん会議で地域とのつながりが持てていると思う。児童館、保育所と連携して、竹田の地域の子ども、保護者の実態を把握したい。 ・保護者にとって子育て支援がどういうことと考えているのか、探りたい。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加者数 ・「ぐんぐん会議」の実施回数とその内容 ・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>預かり保育や業者弁当の斡旋は、ありがたい。園と連携するのに、メール配信が使われているが、今はメールを見ない人が多いので、他に便利な方法があれば導入してほしい。</p>

最終評価

	<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっこり子育てひろば」の実施回数と参加者数 ・「ぐんぐん会議」の実施回数とその内容 ・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっこり子育てひろば」は年間で8回実施、参加人数は24名であった。生活習慣の苦労や工夫についての話を始め、スマホの使い方、特に年長児保護者からは就学に向けての不安や疑問が出された。 ・「ぐんぐん会議」は年間6回実施した。11月の「ぐんぐんひろば」の取組の打ち合わせと情報交換が主な内容であった。今年度は「ぐんぐんひろば」でエレクトーンコンサートを行い、自園の5歳児と4歳児が参加した。情報交換は感染症対策の変化に合わせた教育内容や事業の在り方についての話が多かった。 ・保護者アンケート項目「園は、保護者の子育て支援の充実を図っていること」の回答A（あてはまる）92%、B（ややあてはまる）8%であった。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ほっこり子育てひろば」では、生活習慣を中心に、子どもとのかかわり方などいろいろな話題が出た。何でも話せる雰囲気と子育て先輩ママの話が聞ける場であるので、来年度も続けていく。 ・「ぐんぐん会議」で地域の幼児期、児童期、保護者の実態を把握する。また、事業に積極的に参加し、学区に竹田幼稚園の存在をアピールする機会としたい。 ・アンケートの結果が前期よりA評価が高くなり、よくなっている。保護者が支援を受けやすい（利用しやすい）雰囲気づくりを続けたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館の2歳児の日と重なっている曜日があるので、調整したらよいと思う。水曜日は園が半日保育なので、利用する人が多いので続けてほしい。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間行事を地域関係者に参観に来ていただきご意見をいただく。 ・幼稚園評価について意見や改善策を聞いて、評価委員会で教育計画を見直し改善を図る。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事や地域との交流についての学校運営協議会での意見 ・幼稚園評価結果についての評価委員会の実施 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること」の回答

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会では子どもたちがのびのびと活動している姿が見られた。地域との交流は、今後、「ぐんぐん広場」（エレクトーンコンサート）、「お茶会体験」を予定している。 ・評価委員会では結果について、教職員に感想や意見を聞いた。 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること」の回答はA（あてはまる）85%、B（ややあてはまる）15%、であった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のため、地域の行事が縮小中で、園でも地域の方への公開が運動会だけである。 ・保育所との交流計画（実施できていない）、PTA活動の内容が評価されたと思われる。昨年より、高い評価である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に対する地域の様子を見ながら、園の行事を公開する機会を増やしたい。また、ホームページを見ていただけるように働きかける。 ・保育所との交流はできていないが、計画していることを伝えたり、教員研修を一緒にしていることを発信したりする。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事や地域との交流についての学校運営協議会での意見 ・幼稚園評価結果についての評価委員会の実施

	・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること園は、地域と連携した取組を進めていること」の回答
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>地域のとの交流が少ないと思っている。感染症対策が続いているので仕方ないのかもしれないが、復活したらいいと思う行事もある。</p>

最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・園行事や地域との交流についての学校運営協議会での意見 ・幼稚園評価結果についての評価委員会の実施 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること」の回答
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・予定していた「ぐんぐん広場」は4歳児と5歳児が参加し、保育所の5歳児とともに楽しむことができた。地域女性会のお茶会は感染症対策のため中止とした。新たに2月に保育所の音楽会に4歳児と3歳児が参加し、保育所の友達と顔合わせができた。学校運営協議会の理事は保育所との交流の機会がもててよかったと取組を肯定的に捉えている。 ・評価委員会で幼稚園評価の結果や自由記述に基づいて、教員が意見を出し合った。保護者はわが子の友達関係はどうか、集団生活が順調に送れているか、知りたいと思っていることを再確認した。 ・保護者アンケート項目「園・家庭・地域が連携して、子どもを育もうとすること」の回答A（あてはまる）72%、B（ややあてはまる）22%、C（あまりあてはまらない）6%であった。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や幼保小の交流の様子をホームページに発信し、興味を持ち、竹田学区の子どもの実態を知って、意見をいただきやすくしたい。 ・評価委員会での意見をもとに、自分の保育や保護者との関わりを振り返り、幼稚園教育の理解を図りたい。 ・保護者アンケートでC評価（あまり当てはまらない）が少ないがあることは、その取り組みの発信が十分でないことが考えられる。ホームページやクラスだよりで、発信し、保護者の目に触れるようにしたい。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶会が、感染が広がっていたため実施できなかったのは残念であるが、保育所の音楽会に参加できたことはよかった。

（6）教職員の働き方改革について

<div>重点目標</div> <p>業務の効率化、精選を行い、教職員が見通しを持って仕事をする。</p>

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外勤務の削減 ・ 校務支援員の活用，および担任会の実施。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退勤の回数 (月 1～2 回) ・ 校務支援員の活用の仕方

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退勤は出張時に月 1 ～ 2 回できた。 ・ 掲示物作成やラミネート、教材の整理など、いろいろな業務を頼むことができた。
自己評価	<div>分析 (成果と課題)</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 園で仕事をしているときも、定時退勤を意識したい。 ・ 校務支援員に頼むことは、見通しが持てていないと活用できにくい。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月 1 回、自分で定時退勤する日を設定する。 ・ 校務支援員への依頼内容連絡票を活用する。
	<div>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退勤の回数 (月 1～2 回) ・ 校務支援員の活用の仕方
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>緊急時以外は、午後 6 時以降に園に電話連絡しないということを知らない親もいるのではないかと。毎月のおたよりなど、何かの折に伝えたらよいと思う。</p>

最終評価

	<div>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退勤の回数 (月 1～2 回) ・ 校務支援員の活用の仕方
自己評価	<div>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出張に出たときは、定時に勤務を終えることができたが、戻ってきて仕事を間に合わせようとする姿が見られた。 ・ 校務支援員に依頼する内容をメモして起き、優先順位をつけて手伝ってもらうことで担任の負担軽減になった。 ・ アプリが導入されたことで、朝の出欠の連絡や預かり保育の変更の対応が少なくなり、各自の仕事ができるようになっている。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出張の時以外でも、定時に退勤できるよう、職員朝礼時に声をかける。 ・ 担任の仕事内容を把握し、校務支援員にできることはないか探り、働き方改革につなげたい。 ・ アプリは保護者にも利用しやすいので、園が設定した締め切りを守ってもらうように周知したい。

学校関係者評価	<div data-bbox="220 116 624 156" data-label="Section-Header"> <p>学校関係者による意見・支援策</p> </div> <div data-bbox="220 163 1444 253" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリを活用して先生たちの負担が減るなら、よかった。体温測定はいつまで必要なのか、結構、手間だと思っている親もいる。 </div>
---------	--